

はあとふる ふくしま

ホットな
福祉情報誌

2021

9月

No.298

特集

福祉人材の定着に向けて 私たちができること
～福祉施設・事業所職員就労意識調査結果と施設の取組み～

未来へつなごう“ふくしま”から

「農福連携」のカギはお互いの特性を理解すること

今月の
表紙



夏の暑さにも負けず、熱心に袋かけ作業
を行う利用者の皆さん

(社会福祉法人大生福祉会/片平農園)

目の不自由な方のために「はあとふる ふくしま」は音訳
版および点訳版を作成しています。



「はあとふる・ふくしま」の作成経費の一部に、共同募金
配分金および特別賛助会員の寄付金を使用しています。

福祉人材の定着に向けて 私たちができること

～福祉施設・事業所職員就労意識調査結果と施設の取組み～

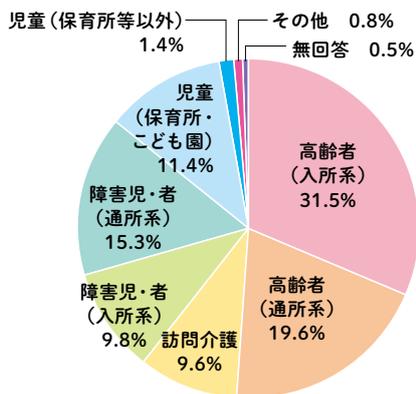
福島県社会福祉協議会では、福祉施設・事業所の職員を対象に就労意識調査を実施しています。今回は令和2年度に実施した意識調査の結果から、福祉人材の定着について考えていきます。



※写真はイメージです。

〈令和2年度 就労意識調査〉

現在勤務している福祉施設・事業所の種別



調査対象

県内の社会福祉法人が運営する福祉施設・事業所に勤務し、日常的に利用者の支援に直接にあっている職員。
※「派遣職員」を除く「正規職員」と「非正規職員」。

調査期間

令和2年12月1日～16日

回収結果

調査票回収率57.4% (配布数5,415、回収数3,115、有効回答数3,108)

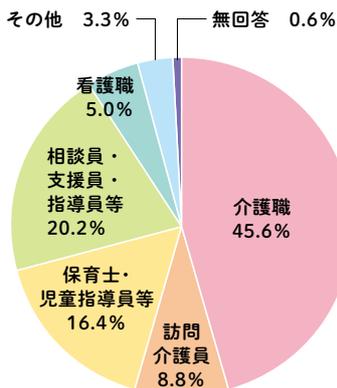
男女比

男 22.3% 女 74.3% 無回答 3.3%

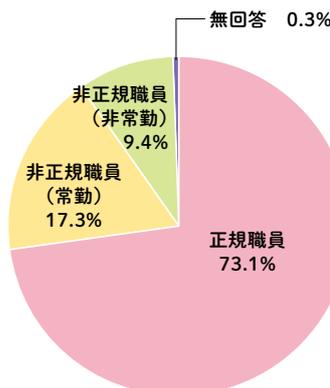
超高齢社会に突入している日本において、福祉・介護の人材不足は大きな課題となっています。福島県では東日本大震災の影響も相まって、人材不足が顕著な地域があり、人材育成や働きやすい職場づくり等、人材定着の向上に努めることが求められています。

就労意識調査の概要と目的

現在の職種



現在の雇用形態



こうした背景を踏まえ、福島県社会福祉協議会では、福祉施設や事業所で働く職員に対して、就労に関する考え方や意見、意向、仕事の魅力等の調査を実施しています。これは、今後の福祉人材の確保・育成・定着に関する対策の資料として活用されることを目的にしたもので、調査概要は次のようになっています。

就労意識調査の結果から見た変化

今回実施した令和2年度の就労意識調査の結果を基に、平成28年度に実施した前回調査の結果を比較しながら、働く環境の変化と、職員意識の変化、どんなことが福祉施設・事業所に求められているのかなどを考えていきたいと思います。

働く環境の変化

残業時間は「グラフ1」のように「0時間から10時間未満」が2・7%の増、「10時間から20時間」未満が0・1%の減、それ以上の時間も減少しており、全体的な残業時間の減少が見られました。

これは平成30年4月1日に施行された働き方改革関連法の中の労働時間法制の見直しにあるように、各福祉施設・事業所が労働時間を客観的に把握し、働きすぎを防ぎながら職員の健康の維持やワークライフバランスの実現を図っていることの結果と考えられます。

有給休暇の取得については「グラフ2」にあるように、「取れている」と回答した方が平成28年度が31%だったのに対し、令和2年度は46・8%と、15・8%の増となっています。「取ろうとすれば取れる」は5・6%の減、「取れない」は10・8%の減となっています。

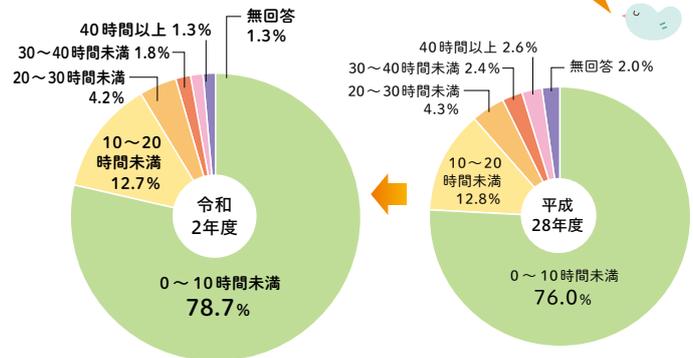
「取ろうとすれば取れる」と回答した割合と合わせると90%以上となり、有給休暇の取得ができる環境が整ってきていることが分かります。

これは前述の働き方改革関連法で有給休暇5日取得の義務付け（年次有給休暇付与日数が10日以上労働者）が始まったことが大きく影響していると考えられます。これまではなかった有給休暇取得の義務付けですが、各福祉施設・事業所において、職員が取得しやすい環境整備や職員への周知等に取組んでいる結果が表れていると思われれます。

このように残業時間や有給休暇取得の推移を見ても、働き方改革関連法を受け、各福祉施設・事業所が働きやすい職場づくりに取組んだことで労働環境が変化してきていると推察されます。

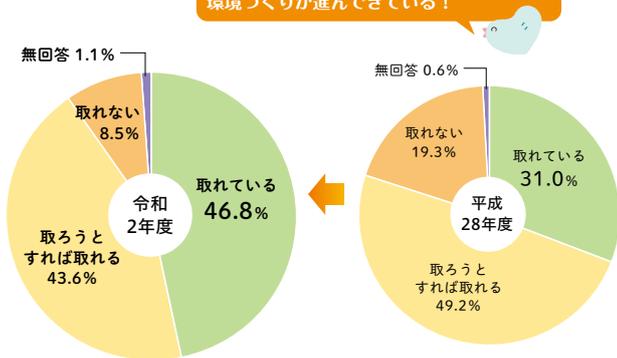
「0～10時間未満」の増加が、全体的に残業時間が減少していることを表しています。

グラフ1 残業時間



「取れている」、「取ろうとすれば取れる」が90%以上で有給休暇が取得可能な環境づくりが進んできている！

グラフ2 有給休暇取得



働き方改革 全体の推進

ポイント1

労働時間法制の見直し

働きすぎを防ぐことで、働く方々の健康を守り、多様な「ワークライフバランス」を実現できるようにします

- 残業時間の上限規制
- 年5日の年次有給休暇の付与義務
- 労働時間の客観的な把握
- 産業医・産業保健機能の強化 など

ポイント2

雇用形態に関わらない公正な待遇の確保

同一企業内における正社員と非正規社員の不合理な待遇の差をなくします

- 不合理な待遇差をなくするための規程の整備
- 労働者に対する待遇に対する説明義務の強化 など

令和2年度福祉施設・事業所就労意識調査結果は、福島県福祉人材センターホームページ⇒「お仕事library」⇒「調査報告書」に掲載されています。

施設・事業所の福祉人材の確保・育成・定着の取組みの資料としてご活用ください。

福祉人材センターホームページ



働きやすい職場づくり

職員の意識の変化

現在勤務している福祉施設・事業所で働き続けたいかという調査では、前回調査と比較し、「ずっと働き続けたい」が3.4%増加しました。全体的に見て44%余りの人が「ずっと働き続けたい」と回答しているように、福祉施設・事業所での人材定着の取組みの効果が表れてきていると思われる。

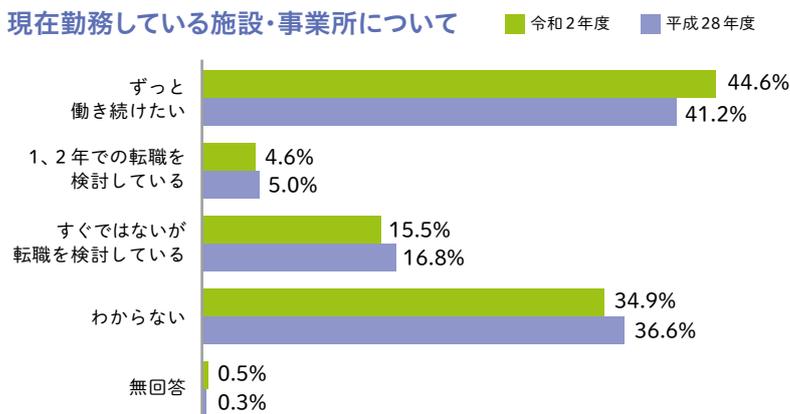
さらに働き続けたい理由を見てみると「やりがいがあるから」が54.4%と半数以上の回答がありました。続けて「生計維持のため」「人間関係(上司、同僚)がよいから」と、この3つの項目が多くを占めており、働きやすさややりがいのある職場づくりの成果が表れてきていることが分かります。

今後も、職員のモチベーションの向上や、やりがいを感じながら働いてもらうための取組みとして、働き方改革関連法への適切な対応や職場のワークライフバランス、職員それぞれの状況に合わせた柔軟な働き方、職員自らが将来のビジョンを描けるような能力開発とキャリアアップの仕組みづくりにより力を入れていく必要があると思われる。

働き続けたい理由(複数回答)

やりがいがあるから	54.4%
生計維持のため	48.2%
人間関係(上司、同僚)がよいから	40.9%
労働条件(労働条件・残業・夜勤等)がよいから	17.2%
子育てと仕事が両立できるから	13.6%
自分の能力を適正に評価してもらえるから	12.6%
給与・賃金がよいから	11.3%
福祉施設・事業所の運営方針に共感できるから	10.8%
キャリアアップが望めるから	10.7%
他に仕事がないから	9.7%
その他	4.0%
無回答	0.4%

現在勤務している施設・事業所について



インタビュー

この施設で働きたいと思える職場づくりを

社会福祉法人 すこやか福祉会(福島市)



事務局長 丹治 千絵美さん(中央)
 人材育成担当 石川 則子さん(右)
 すこやかのリサービスセンター/別館ひなた施設長 佐藤 美幸さん(左)

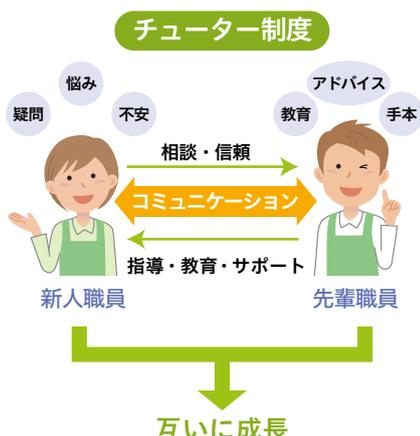
Q 人材定着のための取組みのきっかけを教えてください

丹治さん…当法人は設立時から「職員が働きやすい法人」を目指してきました。人を大切にするという理念にもあるように、職員を大切にするということに力を入れています。より働きやすい職場づくりのために法人としてできることは何か、と日々積み上げてきたものが今日に至っていると思います。

Q 人材定着のために、どんな取組みを行っていますか

石川さん…生きがいと働きがいを持って

る魅力ある職場づくりを目指して、職員全員を対象にした研修を定期的に行い、チームとして同じ方向に向かって頑張るきっかけづくりをしています。また資格取得のバックアップや新卒採用者には先輩職員が1年間マンツーマンでつくチューター制度を取り入れて手厚い指導体制を整えています。



佐藤さん…他にも1等級から9等級まで細かく設定されたキャリアパス制度^{※1}、法人独自の人事考課制度を活用しています。3年前に改訂した人事考課制度は、職員主体のプロジェクトを立ち上げて、約1年をかけて作り上げました。評価の指針に関しては、法人の観点からだけでなく、「ここを評価し

※1 その組織の中で昇進、昇格するための基準や条件を明確に定めた人事制度

人を育てる制度

- 将来自分が目指すべき道筋の明確化
- 職員に求める能力の明確化
- 統一した指導育成
 - ・ 働き方の指針
 - ・ 業務標準シート (マニュアル)
- 目標の明確化
- 適正な評価と処遇
- スキルアップ
- 達成感、モチベーションアップ

キャリアパス制度

人事考課制度

Q 取組みの成果や効果はありましたか

佐藤さん：厚生労働省からは「えるぼし」※2の認定、福島市からは「働く女性

でもらいたい」等といった職員目線の基準を取り入れたことが大きなポイントです。
石川さん：さらに評価の際には、評価担当者として評価を受ける職員で面談を行っており、日常のコミュニケーションの向上にも役立っています。また評価担当者に対しては年2回ほど研修を実施し、事業所や評価担当者によって評価のバラツキや偏りがないように努めています。職員の能力はそれぞれなので、能力を比べるのではなく、良いところを伸ばしていくということを心がけています。

CHECK!

他にも県内の各福祉施設・事業所では、人材定着のためにさまざまな取組みが進められています！

福祉人材センターのホームページでは、働きやすい職場づくりに取り組んでいる法人を紹介しています。ぜひご覧ください。

社会福祉法人 ライフ・タイム・福島 (福島市)

業務改善委員会を立ち上げて、職員のモチベーションの向上を図る



職場の人間関係を円滑にする取組み

社会福祉法人 太田福祉記念会 (郡山市)

「両立支援」と「均等支援」でやりがいを生み、「働きやすい職場」を実現



結婚・出産・育児を経ても働き続けるための取組み

職員が自ら自分たちのユニホームをデザイン

医療法人社団 三成会 (須賀川市)

職員のニーズに合わせた柔軟な制度設計で働きやすい職場づくり



結婚・出産・育児を経ても働き続けるための取組み

健康推進委員会の様子

詳しくは福祉人材センターのホームページ「お仕事 library」をご覧ください



Q 今後の目標や取組みについて教えてください

丹治さん：新卒採用者だけでなく中

途採用者への研修体制をより充実したものに整備しながら、有給休暇の取得率アップも進めていきたいと思っています。面談の際には、ある職員に「どんな法人にしたい？」と聞くと「自分の友人に勧めたい、一緒に働きたいと思える職場にしたい」という答えが返ってきました。本来目指すべきところはそういうことなのかもしません。こうした意識を大切に、多様な働き方を推進して時代に柔軟に対応しながら、今後も人を大事にする法人として、できることに取り組んでいきたいと思っています。



面談は職員との大切なコミュニケーションのひとつ

未来へ
つなごう
“ふくしま”
から

◆福島県授産事業振興会

「農福連携」のカギは お互いの特性を理解すること



▲袋掛けも一度コツを覚えればスムーズに作業が進み、夏の日差しの中、熱心に作業を進めていました

◀片平農園の片平善弘さん(後列右)、
福島県授産事業振興会 農福連携コーディネーターの齋藤譲一さん(前列右)、
社会福祉法人大生福祉会 大生信夫の里施設長の出口美和さん(後列左)

■取材協力

福島県授産事業振興会
福島市御山町 8-30
福島県保健衛生合同庁舎 4 階
TEL024-563-1228 <http://f-jusan.jp>



「人手不足」と「工賃向上」 双方の抱える課題を解決

「福祉」と「農業」それぞれが抱える課題を解決し、新しい可能性につながることを期待されている「農福連携」。一方で、実際の取組みは十分に理解が広まっていないのが現状です。「農福連携」という言葉は知っていたけど、その具体的な仕組みについては知らなかった」と話す、片平農園の片平善弘さん。そんな折、福島県授産事業振興会の齋藤譲一さんとの出会い、農福連携の相談窓口があることを知りました。

6月に入りぶどうの作業が忙しくなったため、作業の手伝いを依頼できないかと齋藤さんに相談。齋藤さんが、社会福祉法人大生福祉会の出口美和さんに打診すると、「当法人は普段からトマト栽培をしているので、農業に対する知識や経験を活かすことができます」と快諾を得られました。その2日後には作業体験を通じて相互理解が図られた上で「農福連携」が開始されました。

全国農業協同組合連合会福島県本部と福島県授産事業振興会が県障がい福祉課の監修のもと、「農福連携マニュアル」を作成。



ぶどうの袋掛けの作業は1チーム4名(施設利用者3名にスタッフ1名同行)で、午前・午後のローテーションを組んで行いました。「初めは自分が付きっきりで指導するのだから心配しましたが、一度教えたことはきちんとチーム内で共有して作業してくれました」と片平さん。齋藤さんのアドバイスをもとに、作業内容を細分化することで、施設利用者にもわかりやすく、また効率的にできたと話します。

相互理解を深め、 「農福連携」の輪を広げる

「農福連携」は、農家の人手



赤い羽根 でささえあい

社会福祉法人 福島県共同募金会

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111 (福島県総合社会福祉センター内)
TEL (024) 522-0822 FAX (024) 528-1234
メールアドレス akaihane@axel.ocn.ne.jp
ホームページ https://akaihane-fukushima.or.jp/



赤い羽根共同募金運動スローガンの 入選作品が決定しました！

福島県共同募金会では、共同募金運動をより身近に感じてもらい、ともに支え合う福祉のまちづくりへの関心を高めることを目的に、毎年スローガンの募集を行っております。今年は、1146点ものご応募をいただき、去る7月2日開催の募金委員会において審査した結果、下記のとおり入選作品が決定いたしました。

応募期間 令和3年4月1日～6月7日

【最優秀賞】

行動とあなたの気持ちで 変わる未来

うちやま はるな
内山 春菜 (福島県立小名浜海星高等学校3年)

【優秀賞】

みんなでね 募金をすると ほら笑顔

ねもと りさ
根本 理紗 いわき市立郷ヶ丘小学校6年

赤い羽根 みんなにえがお とどけたい

さいとう たくま
齋藤 達 西会津町立西会津小学校5年

赤い羽根 支えてみんなで まちづくり

きたうち ゆうな
北内 優奈 南相馬市立石神中学校1年

このまちを みんなで支える 赤い羽根

須賀川市立第一中学校3年3組

赤い羽根 小さなことから つながる輪

ばんない ゆい
坂内 由依 湯川村立湯川中学校3年

赤い羽根 人という字の 支え愛

ゆのむら こういち
湯乃村 紘一 山形県

赤い羽根 命と希望の 道標

たにかわ みつよ
谷川 瑞代 東京都

赤い羽根 贈る心に 金メダル

いち き しんいち
一木 信一 熊本県

たくさんのご応募をいただき、
誠にありがとうございました。



不足解消や、施設利用者の社会性を育み、工賃も向上するなどのメリットがある半面、農業現場の作業時間と施設利用者の作業や移動時間の調整、天候不良時の作業内容の代替案などの発生する課題の解決を図りながら取り組む必要があります。また、「農福連携」という言葉を聞いたことがあっても、その仕組みが十分に浸透していない状況もあり、これまでと同様にすそ野を広げる活動の展開が求められます。

今回作業を依頼した片平さんは、「時間や作業内容を明確にしたことで、スムーズに進めることができ、皆さん真面目に取り組んでくれました。高齢化が進む農家は助かるので、多くの人に波及してほしい」と話します。出口さんも「利用者が地域に出て普段と違う経験をすることは成長にもつながるので、農家の方々に障がいのある方の可能性を理解していただければ」と今後の活動の広がり期待を寄せます。

「最初は難しかったけど、すぐに作業も覚えられたし、立ち仕事にも慣れました」「初めて参加しましたが、優しく教えてもらい楽しくできました」と話す利用者の皆さん



「農福連携は、伸びしろのある取組みです。農業側、福祉側、双方の克服すべき課題がわかりましたし、これから相互の理解をさらに深める橋渡しをしたいです」と齋藤さん。農作業者の確保と利用者の工賃向上やステップアップが実現できる新たな取組みとして、力を入れていきたいと話していました。

県社協からのお知らせ

参加費
無料

令和3年度 福祉・介護の仕事再就職支援セミナーを開催します

介護の資格*をお持ちで、福祉現場にて仕事をお探しの方、または介護の資格の有無に関わらず、介護の仕事に興味がある方を対象に下記日程・プログラムでセミナーを開催します。ご興味のある方は福祉人材センターのホームページをご覧ください。お電話でもお問い合わせください。お待ちしております。

*介護福祉士・介護職員実務者研修、介護職員初任者研修、旧ホームヘルパー1級・2級など。

日程

- 第1回 郡山市 終了しました
- 第2回 令和3年10月13日(水)
13:00～15:30
いわき産業創造館(いわき市)
- 第3回 令和3年10月20日(水)
13:00～15:30
福島県総合社会福祉センター
(福島市)

内容

セミナーでは

- 実際に県内の施設・事業所で働く職員さんから直接お話が聞けます
 - ・今の介護現場はどのように変わってきているのか?
 - ・働きやすい職場づくりへの試み
- フリートーク
 - ・施設の職員さんや、参加者の方と復職への不安や疑問を語り合しましょう!

おすすめ
ポイント

詳しくは、福島県福祉人材センターホームページ
<https://f-fjc.com/>



お問い合わせ先 福島県社会福祉協議会 福島県福祉人材センター TEL 024-521-5662

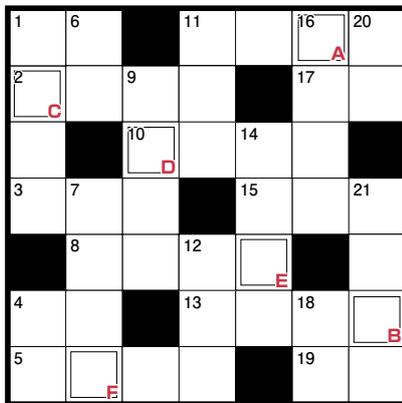
クロスワードにチャレンジ! *正解者から抽選で3名にプレゼント🎁が当たる!

ヨコのカギ

- ① カラー
- ② 登山中に目撃したら「ラク!」と叫んで注意喚起
- ③ 料理屋で注文の料理の前に出す突き出し
- ④ 過去と未来の間
- ⑤ 結婚式で人気の吉日
- ⑧ コレの甘酢漬は寿司屋で「ガリ」
- ⑩ ○○○○索然。○○○○本意。○○○○津津
- ⑪ パッチワークの「パッチ」って何のこと?
- ⑬ 赤ちゃんを授かること
- ⑮ 単位体積あたりの質量
- ⑰ 細長い南米の国
- ⑲ 海、彼女

タテのカギ

- ① 図解、挿絵、クリップアート
- ④ かまぼこが乗っています
- ⑥ 浜通りを縦貫する国道は何号?
- ⑦ 寅さん「それを言っちゃあ、○○○○よ!」
- ⑨ 江戸時代に白河や勿来にありました
- ⑪ ○○○に釜を抜かれる。○○○鳥。○○○に提灯
- ⑫ 日本は円、中国は元、では韓国は?
- ⑭ 浦島太郎に助けられて竜宮城へ連れて行きました
- ⑯ 人類が初めて使用した甘味料
- ⑱ ⇄ 師匠
- ⑳ ○○を通せば道理が引っ込む。○○チョコ
- ㉑ お医者さん



●全部できたら二重ワクの6文字をABC順に読んでいくと、それが答えです。

今月の正解者の中から抽選で3名様に、NPO法人アクセスホームさくら(二本松市・就労継続支援B型)「パンドラスクプレミアムボックス」をプレゼントいたします。なお、当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。



応募方法 ハガキにパズルの答えと①住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、業種 ②本誌に対するご意見、ご感想、ご要望を全てご記入の上、下記までご応募ください。

締切 令和3年10月15日(金)

宛先 〒960-8141 福島市渡利字七社宮111
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会「はあとふる・ふくしまパズル係」

※ご記入の個人情報は適切に管理し、目的以外に使用しません。
※本誌に対するご意見、ご感想、ご要望の一部は、「読者のおたより」に掲載させていただく場合もございます。



多数のご応募
ありがとうございました。

8月号の正解 「見守りの輪 (ミマモリノワ)」

7月号への読者のおたより

- ・コロナ禍の今、子供の貧困を知り、少しびっくりしました。フードバンク活動を知り、なにが出来ないかなど考えていました。自分にも参加できることを見つけたいです。(68才 民生委員)
- ・障がい者の方の意思決定支援の事例で、自治会運営が紹介されており、参考になりました。(63才 団体職員)
- ・意思決定という行為が、人間が自分らしく生きる上でいかに重要か改めて理解できました。(45才 サービス業)

編集後記

特集では働きやすい職場づくりのための取り組みを改めて知ることができました。マイナスイメージを持たれることもある福祉の仕事ですが、「福祉の仕事の魅力」や「福祉の職場の魅力」を多くの方に知ってもらえるよう、今後も様々な形で魅力発信をしていきたいです。

(人材研修課 佐藤友里)